



## 2025年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年11月14日

上場会社名 スターゼン株式会社 上場取引所 東  
コード番号 8043 URL <https://www.starzen.co.jp/>  
代表者（役職名）代表取締役社長（氏名）横田 和彦  
問合せ先責任者（役職名）執行役員 財務経理本部長（氏名）森上 倫輔（TEL）03-3471-5521  
半期報告書提出予定日 2024年11月14日 配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無 : 有  
決算説明会開催の有無 : 有（アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

### 1. 2025年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年4月1日～2024年9月30日）

#### （1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	213,494	5.1	3,232	△10.1	3,667	△23.0	2,502	△27.0
2024年3月期中間期	203,117	△3.8	3,597	3.9	4,765	9.1	3,429	12.2

（注）包括利益 2025年3月期中間期 2,202百万円（△48.4%） 2024年3月期中間期 4,272百万円（26.5%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	128.64	—
2024年3月期中間期	176.59	—

#### （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期中間期	168,930	78,772	46.6
2024年3月期	161,180	78,001	48.4

（参考）自己資本 2025年3月期中間期 78,769百万円 2024年3月期 77,999百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	—	—	80.00	80.00
2025年3月期	—	—	—	—	—
2025年3月期（予想）	—	—	—	110.00	110.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

### 3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭	
通期	412,000	0.4	9,400	4.7	10,800	0.2	11,000	46.4	565.06

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)  
② 期末自己株式数  
③ 期中平均株式数 (中間期)

2025年3月期中間期	19,522,552株	2024年3月期	19,522,552株
2025年3月期中間期	42,408株	2024年3月期	81,535株
2025年3月期中間期	19,453,944株	2024年3月期中間期	19,422,878株

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当中間決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

当社は、2024年11月18日 (月) にアナリスト向け決算説明会を開催する予定です。当日使用する決算説明会資料については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間における日本経済は、雇用環境の改善や訪日観光客の増加などを背景に、緩やかな回復基調で推移しました。一方、先行きについては、米国大統領選に伴う通商・経済政策変更の影響により米国経済の不透明感が強い点や、中国における不動産市場の低迷による影響などで海外景気の下振れ懸念が予想され、日本経済にも大きな影響が生じかねない状況が継続しております。また日本経済については、海外経済動向のほか、内需の伸びに大きな影響力を持つ来年の春闘の帰趨など、今後の成長を大きく左右しかねない要素が数多く見受けられる不透明な状況となっております。

食肉業界では、乱高下する為替相場や飼料価格の高止まりに加え、昨年の猛暑や各地の豚熱発生に伴う国産豚肉価格急騰の影響もあり、厳しい調達環境となりました。販売環境においては、インバウンド需要の回復はあるものの、食肉の全体的な価格高騰の中で比較的安価な食肉に消費が移行しており、食肉全体としては力強さに欠ける厳しい事業環境が続いております。

このような状況下、当社グループは「収益構造の再構築とサステナブルな事業運営」をテーマに据えた中期経営計画の2年目を迎え、計画達成に向けた施策に取り組んでまいりました。

海外販売強化策として、和牛輸出の促進を図るため、“日本の食品”輸出EXPOへ出展し、AKUNE GOLDを展示・商談しました。さらに、豪州における肥育事業のPRとして、豪州産Wagyu協会が開催したコンテストへ八桜牛・御櫻牛を出品し、八桜牛は金賞、御櫻牛は銀賞・銅賞を受賞することができました。

また、「2024スターゼングループ秋冬商品提案会」を初めて開催し、当社の商品技術や強みを活かした新商品の提案ならびに海外進出サポート、プロセスセンターおよびスキンパックの機能を活かした人手不足対応に関する取り組みなどを紹介しました。

加えて、物流の2024年問題への対応として、新たな中継拠点の設置や物流網の再整備に取り組み、物流効率化に注力しております。

サステナブルな事業運営においては、当社グループの掲げる2030年度に向けた温室効果ガスの削減目標がパリ協定で定められた「1.5℃目標」と整合しているとして国際認定であるSBT認定を受けました。持続的に強固な経営の実現に向けてサプライチェーン全体の温室効果ガスの削減に取り組んでまいります。

以上の結果、当中間連結会計期間における売上高は213,494百万円(前年同期比5.1%増)、営業利益は3,232百万円(前年同期比10.1%減)、経常利益は3,667百万円(前年同期比23.0%減)、親会社株主に帰属する中間純利益は2,502百万円(前年同期比27.0%減)となりました。

事業部門別の営業概況は、次のとおりです。

(単位：百万円)

各事業部門の売上高	当中間 連結会計期間	前年同期	増減額	増減率 (%)
食肉関連事業	211,926	201,523	10,403	5.2
食肉	168,491	160,838	7,653	4.8
加工食品	37,634	34,118	3,516	10.3
ハム・ソーセージ	4,781	5,502	▲720	▲13.1
その他	1,018	1,063	▲45	▲4.3
その他の事業	1,568	1,594	▲25	▲1.6

また、部門別の業績は次のとおりです。

(食肉)

国内事業は、物価高による実質的な可処分所得の減少により消費マインドが低下し、国産鶏肉などの比較的安価な食肉への需要シフトの動きがみられました。また、円安急伸や原材料価格上昇を受け価格転嫁に努めましたが、消費者の節約志向の高まりからコスト上昇の影響が先行しました。以上の結果、売上高は前年同期を上回るものの、売上総利益は下回りました。

また、カテゴリ別の業績は次のとおりです。

国産食肉においては、節約志向の高まりによる国産鶏肉の需要拡大や国産豚肉の相場急騰により、取扱量・売上高ともに前年同期を上回りました。売上総利益は、国産牛肉・国産鶏肉の相場が安定していたことから前年同期を上回りました。

輸入食肉においては、現地相場高や円安により輸入食肉価格が高止まりしたことから、取扱量・売上総利益は前年同期を下回りましたが、売上高は前年同期を上回りました。

輸出事業は、スターゼンミートプロセッサ株式会社阿久根工場加工された輸出専用ブランド“AKUNE GOLD”を国内外での展示会に積極的に出品し、事業拡大をはかっています。台湾、ヨーロッパ向け輸出が特に好調に推移しました。

(加工食品)

加工食品は、ハンバーグ商品群やローストビーフ関連商品が堅調に推移したため、取扱量・売上高・売上総利益は前年同期を上回りました。

(ハム・ソーセージ)

ハム・ソーセージは、原材料価格のコスト上昇を踏まえ、価格改定や商品の統廃合、工場オペレーションの改善に努めたものの、取扱量・売上高・売上総利益は前年同期を下回りました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末と比べて、6,101百万円増加し、111,337百万円となりました。これは、主として受取手形及び売掛金が減少したものの、商品及び製品が増加したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末と比べて、1,650百万円増加し、57,583百万円となりました。これは、主として建設仮勘定が増加したことによるものであります。

この結果、総資産では、前連結会計年度末に比べて、7,749百万円増加し、168,930百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末と比べて、4,549百万円増加し、58,961百万円となりました。これは、主として買掛金、未払法人税等が減少したものの、短期借入金が増加したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末と比べて、2,430百万円増加し、31,196百万円となりました。これは、主として長期借入金が増加したことによるものであります。

この結果、負債合計では、前連結会計年度末に比べて、6,979百万円増加し、90,158百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末と比べて、770百万円増加し、78,772百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期の連結業績予想につきましては、2024年5月10日付け公表の「2024年3月期 決算短信」に記載の業績予想から変更はありません。

なお、2025年3月期の配当予想につきましては、修正をしております。詳細につきましては、本日公表の「配当方針の明確化(DOE(連結純資産配当率)目標の設定)ならびに配当予想の修正(増配)に関するお知らせ」をご参照下さい。

## 2. 中間連結財務諸表及び主な注記

## (1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	17,023	15,840
受取手形及び売掛金	32,887	28,631
商品及び製品	34,123	44,389
仕掛品	749	924
原材料及び貯蔵品	2,388	2,387
前渡金	12,667	12,579
その他	5,399	6,588
貸倒引当金	△2	△3
流動資産合計	105,236	111,337
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	12,733	12,307
土地	12,916	12,868
その他(純額)	5,257	7,096
有形固定資産合計	30,907	32,272
無形固定資産		
その他	3,539	3,809
無形固定資産合計	3,539	3,809
投資その他の資産		
投資有価証券	20,022	19,987
その他	1,462	1,514
投資その他の資産合計	21,485	21,501
固定資産合計	55,932	57,583
繰延資産	12	9
資産合計	161,180	168,930

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	18,715	17,758
短期借入金	5,823	12,967
1年内返済予定の長期借入金	10,000	10,438
未払法人税等	1,883	1,367
賞与引当金	1,817	1,702
その他	16,172	14,727
流動負債合計	54,412	58,961
固定負債		
社債	5,000	5,000
長期借入金	18,507	21,099
退職給付に係る負債	1,960	1,977
債務保証損失引当金	423	482
その他	2,875	2,637
固定負債合計	28,766	31,196
負債合計	83,179	90,158
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,658	11,658
資本剰余金	12,502	12,534
利益剰余金	50,369	51,317
自己株式	△190	△99
株主資本合計	74,339	75,410
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,311	3,190
繰延ヘッジ損益	61	△256
為替換算調整勘定	181	325
退職給付に係る調整累計額	105	99
その他の包括利益累計額合計	3,659	3,358
非支配株主持分	2	2
純資産合計	78,001	78,772
負債純資産合計	161,180	168,930

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	203,117	213,494
売上原価	183,892	194,262
売上総利益	19,224	19,232
販売費及び一般管理費	15,627	15,999
営業利益	3,597	3,232
営業外収益		
受取利息	12	15
受取配当金	91	87
持分法による投資利益	627	302
不動産賃貸料	69	76
受取保険金及び配当金	396	327
補助金収入	191	66
その他	256	189
営業外収益合計	1,645	1,065
営業外費用		
支払利息	306	380
不動産賃貸費用	36	29
その他	133	220
営業外費用合計	476	630
経常利益	4,765	3,667
特別利益		
固定資産売却益	269	70
投資有価証券売却益	-	0
特別利益合計	269	70
特別損失		
固定資産売却損	0	-
固定資産除却損	16	4
投資有価証券売却損	6	-
特別損失合計	23	4
税金等調整前中間純利益	5,011	3,733
法人税、住民税及び事業税	1,344	1,269
法人税等調整額	235	△39
法人税等合計	1,580	1,230
中間純利益	3,430	2,502
非支配株主に帰属する中間純利益	0	0
親会社株主に帰属する中間純利益	3,429	2,502



## 中間連結包括利益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純利益	3,430	2,502
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	516	△128
繰延ヘッジ損益	236	△316
為替換算調整勘定	92	135
退職給付に係る調整額	1	△4
持分法適用会社に対する持分相当額	△5	13
その他の包括利益合計	841	△300
中間包括利益	4,272	2,202
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	4,271	2,201
非支配株主に係る中間包括利益	0	0

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(実在性を確認できない取引に関する事項)

当社は、当社の従業員により2018年8月以降行われた循環取引(取引先数社と当社による架空売上の循環)等の不適切な取引が行われている疑義について、2024年1月15日に特別調査委員会より受領した調査結果報告書における調査結果を踏まえ、取引の実在性を確認できないものについての売上高及び売上原価の取り消しを行っております。これに伴って、当該取引の支払総額1,346百万円を仮払金として流動資産の「その他」に含めて計上するとともに、受取総額1,355百万円を仮受金として流動負債の「その他」に含めて計上しております。

現在、本件に関する関係者との協議を進めておりますが、状況によっては、当該仮払金及び仮受金が、当社の財政状態及び経営成績に影響を与える可能性があります。

(セグメント情報等)

前中間連結会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)及び当中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

当社グループは、生産肥育から食肉の処理加工、製造、販売に至るまでの事業を主に国内で行う「食肉関連事業」を中心に事業活動を展開しており、報告セグメントは「食肉関連事業」のみであるため、セグメント情報の記載を省略しております。